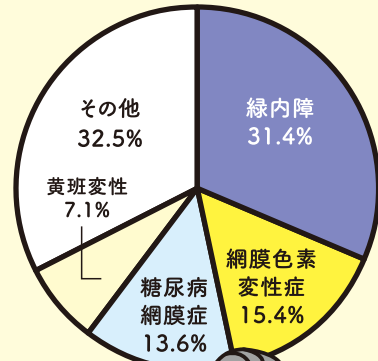


誰でもなりうる!? 中高年の 目の病気



視覚障害認定の原因疾患割合(愛知県)
森實 祐基他 2015年度視覚障害認定の全国調査結果から

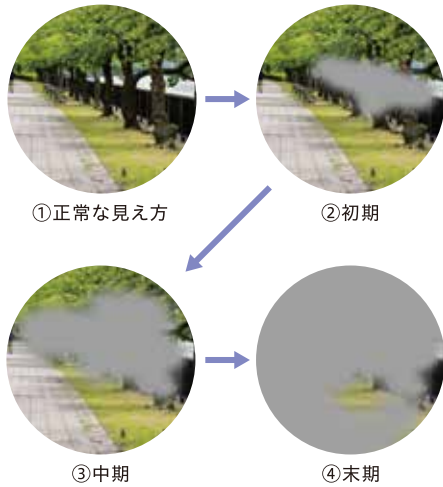


加齢とともに、目の病気のリスクは高くなります。「見えにくくなったのは、年のせい」と考えがちですが、次のような病気が潜んでいる可能性があります。

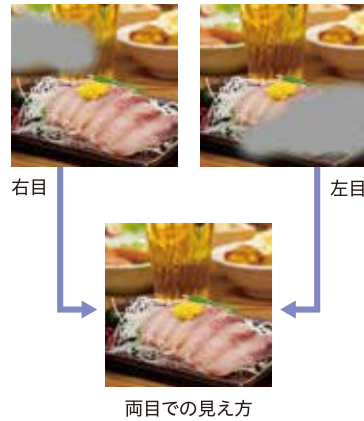
緑内障

視野(見える範囲)が狭くなる病気
40歳以上の20人に1人が緑内障?

目の神経の障害によって視野がだんだん狭くなり、今まで見えていた範囲を見ることができなくなります。また、両目で見ると欠けた視野を補うため異常に気づかず、眼科を受診しないと病気を見つけられないことがあります。



見え方のイメージ

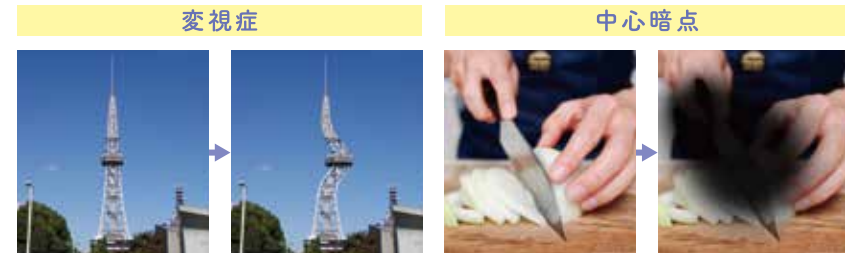


加齢 黄班変性

見ようとするところが見えにくくなる病気
症状を自覚しやすい

網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、物がゆがんで見える、中心が見づらい、視界の真ん中がグレーになってかすむなどの症状がでます。進行すると真ん中が真っ暗になって見えなくなります。

見え方のイメージ



糖尿病網膜症

糖尿病の合併症からくる視力の低下
糖尿病の3大合併症の一つ

糖尿病のある方は血糖のコントロールに努め、早期発見のために定期的に眼科を受診しましょう。



白内障

水晶体*が白く濁り見えにくくなる病気
主な原因は加齢現象

初期のうちに薬で進行を遅らせることはできます。進行した場合は濁った水晶体を手術によって取り除き、人工のレンズを入れる治療が一般的です。



*眼球のカメラのレンズにあたる部分

これらの病気を完治させることはできませんが、早期発見と治療により、症状の進行を遅らせることは可能です。定期的に検査を受けて、目の健康をチェックしましょう。

